



シルバー日向岬

第3号

平成4年5月17日

編集発行

社団法人
日向市シルバー人材センター

〒883 日向市中町7956-9
TEL (0982) 52-2200

■ 絶壁・柱石・20キロにわたる「柱状岩」の連続

リアス式の美しい海岸線を一望する日向岬スカイラインは、青い海原とそそり立つ断崖絶壁の大パノラマがみごと。なかでも細島灯台の下「馬ヶ背」は、谷底まで70メートルの断崖、日向灘の荒波と谷底から吹き上げる風に足がすくむほど。海上遊覧船による柱状岩の岬めぐりもまた違った眺め、このあたり一帯は、日豊海岸国定公園です。

理事長あいさつ

日向市シルバー人材センター

理事長 和田 助一



「高齢化」に拍車がかかったように「超高齢化」という言葉まで生まれた社会状況の中、昨年の総理府世論調査では、六〇歳以降仕事をしたいと答えた人は全体の七割をこえ、特に現在五〇歳代の男性は、その九割近くが六〇歳以降も働きたいと希望しているといえます。

このような情勢の中でシルバー人材センターの果たす役割は、益々欠くことのできないものになると確信いたしておりますが、当市シルバー人材センターもそのような情勢に応え、設立して早や三年を経過、四年めに入りました。この間、会員皆様の誠実な就業の取り組みは高く評価され、契約高も三年度では、年間一億二七〇〇万円の実績を示し、極めて順調な発展

を遂げてまいりました。これも地域住民、企業関係の方々のご理解、ご協力、国・県・市のご指導、そして会員皆様のご努力の賜と深く感謝申し上げます。

設立当初の三年が土台作りの時期としますと、四年めというのは充実期への転換の時期といえます。三年間で得た信頼と実績とを基盤とし、組織強化、安全就業の徹底等をはかり、より充実、発展したセンターとなりますよう、皆様には一層のご協力をお願い申し上げます。

事務局に思う

事務局長

今村 健一



正月のことを今頃引張り出して、月遅れの感じがしますが、お許しください。

新年一月四日、事務局の「仕事始め式」にあたり、私は、職員に対して次のとおり訴えて、お願いをしました。

「展望ははるかにはるかに。実行は足元

から」の格言があります。格言の真意は多少異なりますが、私たちがセンターの仕事面に引用してみましました。

「展望ははるかにはるかに」は、事業経営者、運営管理者の立場で、常にセンターの問題の全般と、将来を考えること。「実行は足元から」は、それぞれの分担事務を日常処理していくということになるかと思えます。

職員が与えられた仕事を全うすることは当然ですが、それだけでは充分ではない。職員一人ひとりが、常にセンターの事業経営者、運営管理者の意識をもって、自分の職務を遂行していただきたい。

私共のセンターも、「石の上にも三年」のことわざのとおり丸三年を経過しましたが、益々問題、課題は増えるばかり、難問山積といったところでありま。しかし、シルバー人材センターは、すばらしい事業理念と理想をもっています。道は遠いが限らない夢と、未来があると痛感しています。

二十一世紀の高齢化社会にむけて、シルバー人材センターのみが唯一の施策とは思われないが大きな柱になることは間違いない

いと確信しています。

幸い、わがセンターの事務局職員は、二〇歳代が四人、三〇歳代(?)が二人の構成で「若さと、やる気」を自慢にしています。未来に向かって、「新幹線のぞみ号」、いや、リニアの如くスマートに、そして力強く走り続けることを期待しています。

会員のひろば

有意義な日々

富高A地域班長

村 矢 光 雄



入会時の不安な日々。

ふりかえってみるに、ペンと共に生きてきた十数年が一転して肉体労働。果たして私に出来るだろうか。知らぬ人とのふれあい、色々と空想にふける毎日でしたが、入会して就業してみると案外楽な日々でした。

一日の就業を終え、事務局職員の「ご苦労さんでした」のね

ぎらいの一言がどれだけ私達の気持を和らげたことでしょう。明日も又、頑張つてやろうという力が湧いてきます。

ひと風呂浴びての一杯のビール・・・これも仕事のお陰だと思えます。その都度、入会して世間のために働かせていただくことに感謝しています。

ある就業内容の一頁として日本相撲協会主催日向場所の前日、協会の仕事に行きました。就業内容がわからないので責任者に聞いたところ、

「ふれ太鼓をかついでください」とのこと。『しまった』と思つたけれどもう後のまつり。門川町の目抜き通りを「テケテン、テケテン」と太鼓の音に合わせて歩きました。その恥ずかしさ、おかしさ、今思いだしても吹き出しそうになりますが、裏を返して考えてみるに、相撲協会が太鼓をかついだ人はそうざらにはいないと、今では誇りに思っています。これも入会していればこそできた事だとありがたく思っています。

事務局職員の皆様、健康には十分気をつけられまして、会員のためにご指導、ご支援くださいますように祈りつつ。

シルバー同士の愛に

ついて

財光寺D地域班

児 玉 光 市



私は昨年の七月にシルバーに入会し、九月頃から事務局のお世話で就業しております。

ところで先日、市建設課の就業のある朝、車がかからず、自宅から三キロあまりある現場まで歩いて行き、一日働いて帰る時に、会員の越名さんが車に私を乗せて現場から八キロあまりもある越名さん宅まで行き、バッテリー充電機を車に積んで私の家へ戻り、七時頃までかかって充電してくださいました。

翌朝私は、車に乗りスイスイと現場へ向かいました。その車中で私は、同じ会員同士という越名さんの人情の深さと、シルバーの同士の愛を心に思い浮かべ目頭が熱くなりました。本当にありがとうございます。私もこのような先輩会員の方

々のように少しでも人のためになるように協力しようと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。

高齢社会を生きる

日知屋枝郷A地域班

橋 口 米 實



高齢化の進む中にまず最初に健康問題が論じられる現在ですが、長寿も健康であってこそ幸せであり、楽しく意義のある人生を送ることが出来るものであります。

その幸せを掴むものは各人の日常の心掛けが最も大切です。最近、高齢者の中にマイペースで過ごすことを好む傾向がありますが、これは自分を孤立させ、引きこもりがちとなり、精神的にも肉体的にも健康維持に障害を及ぼす結果となるものであります。

高齢者は、常に他人に接触し、対話の場を求め、楽しく社会に貢献しながら、健康をまもるこ

とが必要であると思えます。それには自分の生活を価値あるものとして存在感を持ち、又、社会に披露することでありませぬ。

私達高齢者を規則正しく、そして有益に導いてくれる機関がシルバー人材センターであることは言うまでもありません。一日一日をセンターの一員として友人と共に責任を果たしながら楽しく働くことよって、自己の持つ、長年培ってきた「技量」を活かし、社会に貢献することが健康をまもる道であることと思ひます。

又、我が国の高齢化社会は世界最高といわれ、三十年後には四人に一人が六五才以上の高齢社会が到来するという世の中です。なお、現在高齢者の中に七〇万人の寝たきり老人がいると言われますが、好んで寝たきりになる人はおりませぬ。シルバー人材センターで皆と楽しく働くことが寝たきり老人にならないう最も良い環境作りだと思ひます。

又、自宅においても常によく動くことが健康をまもる方法です。それには日常自分の必要な物を座したまま手の届く所に置かないこと、「座ったら動かな

い」生活でなく、他人を使わずさつと立つ動作、これが足腰をまもる健康法です。誰にも老いの順番は回ってきます。日常の健康をまもりましょう。

働くよろこび

日知屋本郷B地域班

是 沢 マサ子



主人が健在の頃は、東京の会社の仕事をうけ、洋裁の仕上げまでの仕事を、二人してしておりましたが、主人も高齢のため倒れて、入退院をくりかえして仕事もやめました。それから主人看護一途の生活が続き、三年前、その主人も他界し、一人の生活となりました。

まだ自分の健康にも自信があり、何か仕事はないかと思っております。知人からセンターの話聞き、自分に適している仕事と思ひ、さつそく入会させていただきます。

すぐに、清掃の講習を受けさせてもらい、仕事も色々で紹介していただき、今、自宅に近い所で就業をさせていただき、感謝いたしております。

これも皆、センターのお陰と健康にも恵まれ、今後も一生懸命働こうと思っております。

就業先では色々な人の集まりですので、性格も色々な人がおります。でも皆こらえて自分の与えられた作業にうち込んでおります。

働いていて一番嬉しいことは、銀行に配分金が振り込まれる時です。自分で働いて得たお金だと感激しております。

私は花が大好きですので、趣味で色々な花を育てています。花が咲いたのを見ると世の中が明るくなったような気がいたします。今後も、私が健康な間は人様に迷惑をかけず、働いていこうと思っております。



シルバー人材センター

に入会して

日知屋枝郷B地域班

岡田 万寿江



入会して初めての就業は、病人の介護と家庭内の仕事でした。家の中の仕事が大好きな私にとっては、もってこいの仕事と、思っただけ引き受けましたが、他人の家庭の事情に首をつっ込むような気もしてきて、初めての就業は気が重いものになりました。十日間ぐらいでこの仕事も済み、次からはセンターからの依頼の電話がくるのが気が重く、何と断わろうかと考える毎日が続きました。

センターに入会したのは、失敗だったのだろうかと考えている頃に、日向市文化交流センターの清掃の話があり、現在は、七名で就業しております。

今では、四、五日目の当番日が待ち遠しい程です。一日の就業を終え、帰る時に、職員の方

々の「お疲れ様！」の一言で、一日の疲れも忘れられます。

センターを通じて多くの方々との出会いがあり、娘からは、「お母さん、毎日が生き生きして楽しそうね。」

と言われます。これから先の第二の人生を、局長をはじめ、職員の方々にお世話になります。会員と共に楽しく生きたいと思っております。

第二の人生

平岩地域班

山田 一郎



毎日が海の上の生活で、同じ釜の飯を食った同僚たちと別れる時がきました。退職の日です。その後、六年が過ぎ去りました。

家に居ても色々な仕事はあったが、体は太り、血圧は高くなり眼底出血までおこり、病院通いを続けてきました。

ある日、友人に会い、話の中に仕事の話が出ました。シルバー人材センターの話でした。

早速センターに行き、申し込みました。

私にとっては第二の人生のスタートです。久しぶりに働きました。仕事をするには実に楽しいものです。つくづく生きがいを知り、自分自身が老け込み老人と思いついていたが、いまだ元気であったことをありがたく感じた。

これからは頑ばらなくちやあ。先輩たちのご指導と経験をたまり、体に気を付けてこれから人生を一步一步踏みしめていきたいと思っております。

事務局の方々をはじめ会員の皆様、今後ともよろしくお願い申し上げます。

私の反省

美々津地域班

黒木 ウメ子



入会して早三年ほどがたつたかと思いますが、その間色々と思ひ出多い毎日でした。

最初は、除草、植木剪定の片

付け、養護老人ホーム「永寿園」の掃除洗濯、都農農産加工工場と行かせていただいていたきました。

どこでも楽しく、元気で働いて毎日過ごしてまいりましたが私が一番嫌な、人様に迷惑をかけることが起こり、反省し心苦しく思っています。それは都農農産加工工場での就業中、作業場内で慌てて走り、転んで脚を怪我してしまい、入院してしまつたことです。工場の方々、センターの皆様にご心配、ご迷惑をおかけしてしまいました。

ベットの中で、あの時、慌てず走らなかつたらと思ひ、自分が情けなく、悔しくてどうすることもできませんでした。ただ涙が出るばかり、今考えても二度とあんな迷惑をかけてはならぬと思っております。

そのうち、脚も良くなり、就業できるようになったところへ又、都農農産加工工場へ行く話がありました。二度と使つていただけぬと思つていましたが、考え直して、二度と迷惑をかけるに恩返しをしようと考えて、反省しながら、今では楽しく通つています。

センターに入会して、友達もたくさんでき、講習会などい

ろんな勉強もでき、こうしてあらゆるもの一切のことに感謝できる自分にもしていただきました。

これからは、社会のため地域に役立つ人間になっていきたいと思つていきます。皆様も体を大事に氣をつけて下さいませ。

発注者の声

シルバー人材センター

と永寿園

特別養護老人ホーム永寿園

園長 森 迫 邦 人



戦後の激動、混乱、復興を乗り越えられ、昭和、平成の「繁栄」を築かれた「お年寄り」の皆さんを、お世話をするのが、特別養護老人ホーム永寿園の任務であるのが、今や「お年寄り」の介護をしながらシルバー人材センターのお世話になつてい

るシルバー人材センターとのお付き合いは三年前になります。

永寿園の仕事は、障害をもつ「お年寄り」の生活の場所ですので、洗面所、居室、フロアー清掃等の仕事が多くあります。数年前から短期入所、通園機能回復訓練等の事業を在宅の「お年寄り」の皆さんが利用するようになりましたので、施設の職員では過重労働になりがちでしたので、シルバー人材センターのパワーのお世話になつて

いる次第です。現在では、清掃等の業務から在宅通園者の送迎、夜間警備等の重要部分の仕事をごなして頂いております。

シルバー人材センターの皆さんは誠実、勤勉、責任感に満ち溢れています。

このパワーこそ「永寿園」になくしてはならないものになり、シルバー人材センターとは、きつても切り離すことの出来ない関係にあります。

紙面を借りまして深く感謝申し上げます。

これから、超高齢社会に向かつて、増加する一人暮らし、虚弱な「お年寄り」の皆さんが、「明るく楽しく」地域社会の中

で暮らす為にはシルバー人材センターの必要性が重要視されることは間違いないものと確信いたします。

シルバー人材センター

を利用して

都農農産加工工場

総務課長 河野 清子



当社は、都農町において、昭和三八年より漬物等の製造を営む食品会社です。従業員数三〇名で、内、男性四名、女性二六名となつております。

早くより無添加製品を手がけていたこともあり、近年の健康食品ブームも手伝つて、毎年受注が増え続け、大根の漬け込み時期等、人手不足が悩みの種でした。漬け込み時期には年間の使用量の七、八割を短期間で処理しないといけないことと、年末とも重なり、受注が特に多く目の回る程の忙しさです。

そんな時、ある人からシルバー人材センターのことを聞き、

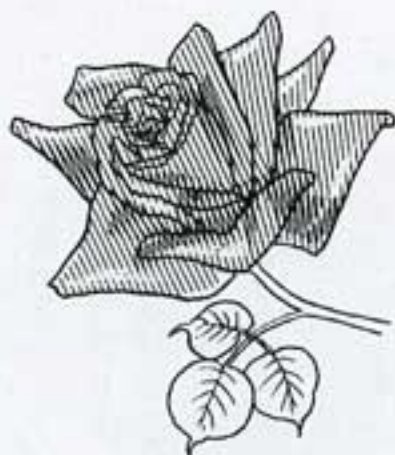
早速連絡をとり、八名の会員さんに来ていただくようになりました。

最初は、正直言いますと、高齢の方々ということ、少し不安な気持ちがありました。会員さんにしても同じ不安な気持ちだったろうと思います。

『どんな仕事だろう?』『私にできるだろうか?』と。

あれから二年過ぎた今では、会員さん方の忍耐強さ、昔気質の実直さがよくわかり、安心して仕事をお願いしています。又長い年月をたくましく生き抜いてきたパワーに圧倒されそうになることも度々です。

今後も、当社に来てくれる会員さん方はもちろんのこと、全会員の皆様が健康に留意され、生きがいのある毎日でありますよう、又、地域社会に貢献されることをお祈りいたします。



会員の講習会

障子・襖張替え講習会

に参加して

日知屋枝郷B地域班

長 弘 ヒサヨ



自分の家の障子や、襖の張替えぐらい、自分でできないものかと、常々思っていました。この仕事は秋口にならないと思いき、年末になると思い出す賀状と同じで、

「ああ、障子の張替えをやらなければ……」、襖も随分赤茶けてしまったけど、こちらの方は本職に頼まないと駄目とあきらめておりました。

ところが先月末、センターから、襖・障子張替えの実技講習会開催のお誘いを受け、さっそく申込み、受講いたしました。伝統工芸ともいえる襖の張替え等、秘訣はなかなか教えてもらえないものですが、早朝、都市市シルバーから、わざわざ来

ていただいた二人の講師の方は実に解りやすく、細かいところまで、懇切丁寧に教えていただき、受講生の一同も、午後の終了前ごろは、皆相当の自信がつくまでに勉強できました。

今後、年二回ぐらい、実技講習を開催して下さるといことですが、多くの会員さんが、受講されることを、お薦めいたします。

本当に、楽しく有意義な実技講習会でした。

調理講習・健康教室に参加して

新町・塩見地域班

黒 木 安 子



一雨ごとに春めいてまいりました。三月十九日、日向保健所において、栄養士さん、保健婦さんの講義の後、日向市社会福祉協議会事務局のお話を聞きながら、私達センター会員の日々の生活の中、豊かな老後を送るためにも美しく老いていく、又

社会の恩恵を受けていることと健康な体をいただいているのに感謝が湧いてまいります。

人生八〇年と高齢者の増える現状の昨今、どう過ごさなければならぬかを教えていただき、日々の努力と工夫をいきました。日々の努力と工夫をい

かしながら食事のバランスを取り入れ、心の持ち方にも健康と関係のあること、悩めるお年寄りの介護が今一番必要な時期が来ています。手をさしのべながら自分自身も看てもらわなければいけないと思う時、健康な時こそ社会のお役に立たせていただきたいものです。

センター会員の社会の中でいることを忘れず、いたわり合いつつ生きる喜びを分けあいながら、自分たちの姿勢を見ながら、子供たち、孫たちにも良い影響を与えられる人柄づくりに頑張りたいものと感じた一日でした。

事務局職員の皆様の並々ならぬご苦労に感謝して、益々のご発展を祈らずにはおれない気持ちでした。

これからも回を重ねながら皆さんの和が広がることを願いつつ、ありがとうございます。

都城市センター

視察研修に参加して

財光寺C地域班長

黒木利光



働くことを目的とし、体力作りがしたく、平成元年にセンターに入会しました。入会後の初就業は倉庫の片付けでした。

このたび初めて都城市センターさんとの交流研修会に参加しました。期日は、平成四年二月二〇日、午前八時、マイクログバスにてセンター前を出発、目的地都城市センターへ。

バスの中では色々と話がはずみ、退屈する暇なし、早くも都城陸上自衛隊に到着いたしました。昔懐かしい歩兵二三連隊が駐屯し、精鋭を内外に謳われた旧軍ゆかりの地です。今村局長他、事務局職員の方々のお骨折りにより、自衛隊内部を見学させていただきました。外へ出ると、寒く底冷えのする都城です。

食事の時間となり、隊員食の試食をいたしました。栄養一〇〇%、おいしい食事でした。ま

た、一日のカロリーは三三四〇カロリーだそうです。色々と言明していただき、ありがたく思っています。これもセンターに入会していればこそできたのだなと思えました。

駐屯地を出発、都城市センターへ着きました。交流会前に作業場、倉庫等を見てまわり、管理の仕方などについて説明を受けました。その他、会員募集についての取組み方など、うかがいました。

役員交流研修会に

出席して

財光寺D地域班長

森岡健二



平成四年一月二十八日、宮崎市シルバー人材センター役員、二十九名が視察研修に当市を訪れ、合同研修会が開催され参加した。全体会が十一時より正午まであり、課題として、会員確保。就業開拓。安全就業。不就業会員対策。地域班組織と活

動について。対外研修と研修旅行。会報の発行等について、説明並びに質疑応答がなされた。

午後は三つの分科会にわかれ各々異なったテーマで研修会があった。この会合で痛切に感じたことは、どこのセンターでも幾多の問題をかかえておりその対策に努力はしているが、まだまだ充分とはいえない。私達は現役時代に「問題解決の手法」を

福祉のつどい

福祉のつどい参加の

喜び

日知屋枝郷B地域班

成合敏



センター事務局より、今回行われた福祉のつどいに作品を出品してほしいとの案内文書が参りました。はて、と一寸戸惑いを感じました。今さら出そうと思っても、これといったものは見当たらない。内容も自作とのこ

勉強し知識としてもっているの
で、問題解決対策委員会をつくり、積極的に取組みセンターの
長期的、持続向上を図ってはと
考えます。今回の交流会で習得
したことを今後の地域班の会合
に活用していきたいと思えます。
最後になりましたが、宮崎よ
りおいでいただいたセンター役
員の皆様ありがとうございました。

とでなおさら考えてしまいました。
今習い始めている絵がある
と思いがち、いまだ未熟で
恥ずかしさが先にたち、ためら
いながらも出品させていただきました。

開催当日の盛會なる雰囲気
を見たとき、出してよかった、と
密かに思い、このうえない喜び
を感じました。

会場の一角に設けられたセン
ターのコーナーの会員皆様の日
頃の趣向をいかしたオリジナル
作品も種々多々に至り、大きく
言うならば、世界に一つしか
ない自作の品々が、ささやかに
地域社会のために役立つと思
うとき改めて深い感激に浸った
次第です。

最後に、直接に行事にたづさわられた方々、誠に苦勞様でした。

福祉のつどいに

参加して

日知屋枝郷B地域班

村上 喜美子



二月九日は、日向市の年に一度の福祉のつどいでした。とても冷たい朝でしたが、八時頃に行くと、センターの今村局長さんをはじめ事務局関係者がテントの設置を終えておられた。

私もほんの心ばかりの手作りの小物の受付をすませる。何名かの出品物が机の上に並べられている。心を込めて作られたものに、どれを見ても皆ほのぼのとする物ばかり。誰がこの心のぬくもりを感じて買って行ってくれることでしょうか。

一〇時開幕。花火が上がリ、大勢の人たちがどっと入場され蜘蛛の子を散らしたように各売店に急ぐ。

センターとは、若いころの蓄積された仕事の能力、技能は勿論ですが、趣味の面でも長年培われた技術を分けあい、その中から楽しみながら、各々サークルを作り、会員皆で和を持って人生をエンジョイできる場となるのも意義があるのではないのでしょうか。そして、色々の分野で会員が活躍の場を広げて、歴史の浅いセンターを後継者の方々に、第二の青春の素晴らしさを知っていただくことも一つの役目ではないかと思えます。そして来年の福祉のつどいには、もっと会員の思いやりの出品で地域社会に賑やかに参加できたらとても素晴らしいことだと思います。

センターの理念

公共的・公益的に思う

日知屋本郷B地域班長

安藤 稔



シルバー人材センターは、会員の自主的、主体的、共働共助を、基本理念として運営され、高齢者の希望に応じた、臨時的、短期的な就業の機会を組織的に提供して、会員の健康維持、生きがい作りと社会参加の推進を図り、高齢者の福祉の推進に寄与する団体であります。センターが任意団体から国の補助事業として格付けされ、法制化されたことは、地域社会にとって貢献度の高い公共的、公益的就業分野として認められたからであり、国や地域社会に貢献し、利益をもたらしたことが、国や公共団体が、シルバー人材センターを側面から協力援助し、育成することになった所以であると思えます。よってセンターの会員の就業活動は、健康の維持、経済的なゆとり作り、生きがい作り等の意味に止まらず、産業界の労働力不足補完の一端を担い、地域社会を支えると共に、社会の利益に大きく寄与するといふ役割を果たしておるので、会員の就業活動は、公共的、公益的性格を持っていくといふことを誇りとして、共働共助、誠実、責任感をモットーに、活動すべきだと思います。

健康ひろば

煙草と酒

日知屋本郷A地域班長

重成 初美



或る日、孫から「煙草は外で吸って」と言われたときには大きなショックを受けた。禁煙を度々公言しながら未だ実行できないでいる。周囲が孫の力をかりて禁煙を迫ったものである。そのときから私はホテル族になった。家の中の喫煙がはばかられて庭先で吸っている。夏の夜は心地よいが、冬の夜空を見あげるときには寒々とむなしい。煙草の本数は半減したのでホテル族も卒業できるのではと、意志薄弱なホテルは思っている。煙草の外装にも「吸いすぎに注意しましょう」と警句があるように体にはあまり良くないらしい。

「酒は百薬の長」と言われている

る。小原庄助さんが身上をつぶしたの酒、これも飲みすぎると悪いようだ。理性を失い、ときには常軌を逸した言動を伴ないがちだ。お互いに体調の保持には注意したいものだ。事故、怪我は個人の要因、現場の要因に基因するものがある。安全は個々の自覚から生れてくる。

いとわざ・格言

いろはがるたを集めて見ました。昔を思いだして楽しんで下さい。

財光寺 A 地域班長

笹原 亨



い 一寸の虫にも五分の魂。
 ろ ローマは一日にして成らず。
 は 腹が減っては戦はできぬ。
 に 二兎を追う者は一兎も得ず。
 ほ 仏の顔も三度まで。
 へ 下手の横好き。
 と 取らぬ狸の皮算用。
 ち 塵も積れば山となる。

り 良薬は口に苦し。
 ぬ 抜けがけの功名。
 る 老いもはりも照らせば光る。
 お 老いては子に従え。
 わ 渡る世間に鬼は無し。
 か 金は天下の廻りもの。
 よ よしのずいから天井のぞく。
 た ただほど高いものはなし。
 れ 歴史は夜作られる。
 そ 惣領の甚六。
 つ 月とすっぽん。
 ね 猫に小判。
 な 泣きつ面に蜂。
 ら 楽は苦の種苦は楽の種。
 む 無理が通れば道理が引込む。
 う 馬の耳に念仏。
 る 井の中の蛙大海を知らず。
 の 能ある鷹は爪をかくす。
 を 尾張名古屋は城で持つ。
 く 苦しい時の神頼み。
 や 安物買いの銭失い。
 ま 待てば海路の日和あり。
 け 喧嘩両成敗。
 ふ 風前のともしび。
 こ 弘法も筆の誤り。
 え 縁は異なもの味なもの。
 て 敵は本能寺。
 あ 案ずるより生むが易し。
 さ 猿も木から落ちる。
 き 聞くは一時の恥聞かざるは一生の恥。
 ゆ 油断大敵。

め 目の上のたんこぶ。
 み 身から出た錆。
 し 勝負は時の運。
 系 絵にかいた餅。
 ひ 人の噂も七十五日。
 も 桃栗三年柿八年。
 せ せんだんは双葉より芳し。
 す 好きこそ物の上手なり。
 以上一字について一つずつ拾ってみました。他にもいろいろありますので、自分で当てはめてみて下さい。

郷土の史跡

西南之役戦没者慰霊の碑をたずねて

財光寺 A 地域班

高本 晴吉



日向市幸脇飯谷地区集落センター東側幸脇飯谷古墳の菅原神社境内に東面は鹿児島県知事鎌田要人書の西南之役戦没者慰霊之碑があり、その西面には西郷隆盛翁崇拝する第一人者である防衛庁長官、総理府総務長官、

環境庁長官、通産大臣を歴任された鹿児島県曾於郡末吉町出身で現中央畜産会会長の山中貞則先生の歌。「南州翁ひたまもり来てここに果つ、勲を語りつぐものもなく。」
 あり。碑誌。明治革新は日本史上燦たる光明を放つ、その陰に義と道の為に倒れたる幾多の傑士あり、その余燼未だ治まらざる明治十年決然起つて困難を救わんと九州の健児数万、志を空しゅうして異郷の山野に散る。西郷隆盛の孫隆秀氏永くその霊を慰めんとしてここ美々津川の辺に碑を建つ、併せて共に死したる官軍の兵士も恩讐を越えて弔ふ。昭和五十四年五月五日建碑協力者一同。その昔この地に於いて薩軍と官軍の激戦の戦跡を偲び、温故知新、感慨無量でありました。



趣味の紹介

短歌

美々津地域班

中村 和子



拭き上げしガラス戸越しに

透き通る青空高き真昼の静寂

永寿園にて 十月

真青な大空仰ぎ昼しばし
仕事を忘れ深く息吸う

都農農産加工工場にて
十一月

随分以前から、友人たちと勉強会をかさね、折々の歌を詠んでおります。今回は、センターの就業のことを詠んだ分を出してみました。お陰様で、健康で働くことの幸福に感謝しながら就業をさせていただいております。

☆ 講習会あれこれ ☆

当センターでは、幾つかの技能講習会を行っております。今年度も、より充実した内容での開催を予定しています。皆さんの参加をお待ちしています。



草刈機取扱講習会



調理・家庭サービス講習会





障子・襖張替え講習会



清掃技能講習会



植木剪定講習会



平成4年4月30日現在会員数

地域班名	会員数
新町・塩見	23
富高 A	21
富高 B	20
財光寺 A	21
財光寺 B	10
財光寺 C	39
財光寺 D	32
日知屋本郷 A	24
日知屋本郷 B	29
日知屋枝郷 A	27
日知屋枝郷 B	19
細島	8
平岩	8
幸脇	6
美々津	21
合計	308

(男:164人 女:144人)



作業を終えて

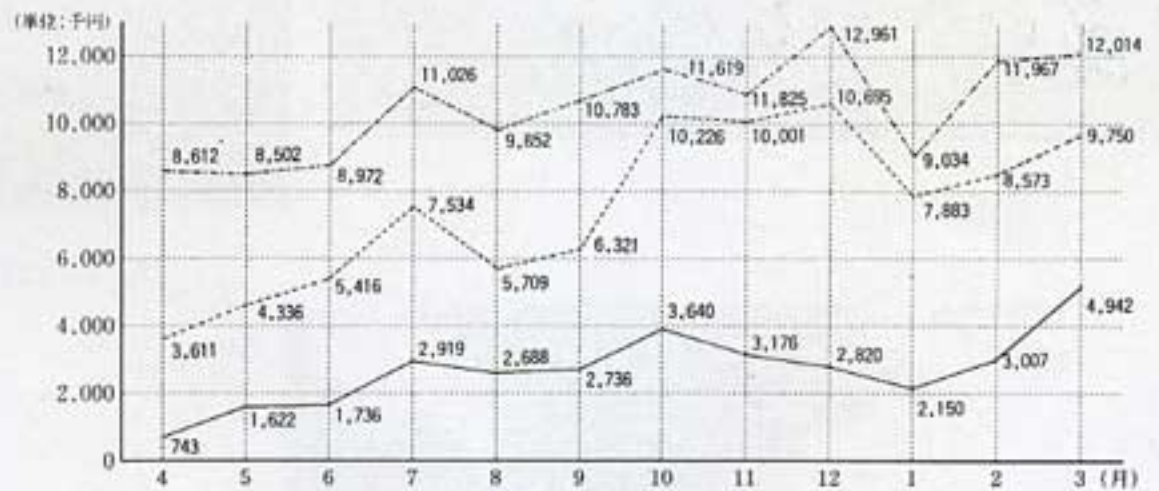
ホッとひと息

みんな頑張ってます!



平成元年度・2年度・3年度事業実績調査

— 元年度 — 2年度 — 3年度



▼会員逝去のお知らせ

黒木 二夫様 (62才)

財光寺A地域班

平成四年四月十六日

永眠されました。

心よりお悔み申し上げ
ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

冬の眠からさめて草木も生き
づく春の季節となりました。第
三号より原稿を自由投稿で、お
願いましたところ第一回目の編集
委員会「三月三日」までに十三
名の投稿をいただき、予想を上
回る実績を得ましたことは、会
員皆様の会報に対する積極的姿
勢の現れと深く感謝申し上げます。

昨年より参加している福祉の
つどいについて二通の投稿があ
りましたので記載しました。将
来は会員で実行委員会をつくり
自主的に運営していく声も出て
います。実現のために会員一人
ひとりが趣味のグループに参加
して、そこから得た作品を社会
に奉仕してはと思います。
会員の方より今回は投稿にま
にあわなかったので次回の会報
に提出しますという有難い電話
もいただきました。今後共支
援とご協力をお願いします。

編集委員

森岡 健二・治田 恵

椎葉ハツノ

事務局職員

今村 健一・兵頭 幸一

出口美由紀